

阿賀北葬斎場火葬残灰等処理業務委託仕様書

1 総則

本仕様書は、阿賀北葬斎場（以下「葬斎場」という。）における火葬で発生する残骨灰と集じん灰、霊砂及び金属類（以下「残灰等」という。）収骨後の残灰等の搬送・保管方法、中間処理方法及び最終埋葬地への埋葬方法の処理方法を定めたものである。

残灰等の中には、一部有害物質の含有が危惧されているところであり、その処理・処分にあたっては、環境汚染や衛生危害が発生することのないよう十分に注意を払う必要があることから、一部のものについては特別管理産業廃棄物に準じて取り扱うこととする。このため、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の関係法令の遵守はもちろんのこと、死者の尊厳に配慮しながら、環境衛生及び安全に特段の注意を払いながら業務を遂行すること。

2 履行期間

契約の日から令和9年3月31日まで

3 契約方法

死体火葬件数1件（12歳以上）当たりの単価契約（単位：円／件）（消費税別）とする。

4 死体火葬実績（12歳以上）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1, 297件	1, 419件	1, 402件	1, 388件	1, 175件

5 処理業務対象残灰等

令和8年3月1日から令和9年2月28日までに発生する残灰等を回収し、履行期間内に処理等を完了するものとする。

6 基本的事項

（1）本仕様書は阿賀北葬斎場火葬残灰等処理業務（以下「業務」という。）の概要を示すもので、本仕様書に明記していない業務でも、他との関連性から判断して常識的に必要と認めた業務は、受注者において実施するものとする。

（2）受注者は業務実施にあたり、事前に「残灰等処理業務計画書」を作成し、発注者へ提出すること。

ア 残骨灰等搬出

（ア）搬出予定日

（イ）搬送経路

（ウ）搬入場所

（エ）作業責任者

イ 残骨灰等中間処理

（ア）実施予定期間

（イ）中間処理工程表

ウ 処理残骨灰等埋葬

（ア）埋蔵予定日

（イ）埋葬場所

エ 処理残骨灰供養

(ア) 供養予定日

(イ) 供養場所

- (3) 受注者は業務終了後、各実施状況写真を添えて「残灰等処理業務実績報告書」を作成し、遅延なく発注者へ提出すること。
- (4) 有価物を含む残灰等については売却処分を行い、資源の再利用を図ること。なお、売却処分により発生した利益分（処理経費を除いた利益分）は発注者へ納付すること。

7 残灰等の搬送、保管、処理及び処分方法

- (1) 葬斎場から発生した残灰等については、指定管理者と日程を協議の上、葬斎場において引渡しを行うこととする。概ね3か月に1回の引渡しとする。
- (2) 残灰等の搬送は、耐久性があり、破損しにくく、密封できる構造の搬送用容器等を使うこと。
- (3) 搬送用車両は搬送用容器等が荷崩れ及び飛散しないように対策を講ずること。
- (4) 各工程での保管は、飛散及び流出することのないように建物内で行うこと。
- (5) 引渡しを受けた残灰等については、処理施設内で中間処理を行い分別すること。
- (6) 分別処理を破砕機、磨砕機、ふるい、ベルトコンベア、バケットコンベア等、乾式で行う施設にあっては、次に掲げる措置を講じること。
 - ア 分別処理施設は、建築物内に設置すること。
 - イ 分別処理施設は、フード及び集じん機が設置されているか、又は防塵カバーで覆われていること。
- (7) 分別処理を水洗式破砕施設、水洗式分別施設、沈殿施設等、湿式で行う処理施設にあっては、次に掲げる措置を講じること。
 - ア 排水は、排除基準を遵守の上、公共下水道等へ排除すること。
 - イ 水処理に伴って発生する汚泥等の廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に適合する処分を行うこと。

8 残骨等の埋葬及び供養

- (1) 分別した残骨等は、墓地、埋葬等に関する法律の趣旨に従って取り扱うこととし、動物の骨など他のものと混合して埋蔵するなど、市民感情を害し、公衆衛生その他公共の福祉に支障を来たす取り扱いを行わないこと。
- (2) 残骨等を埋葬する場所は、墓地、埋葬等に関する法律第10条の許可を受けた墓地又は納骨堂とすること。
- (3) 埋蔵場所は、残骨等の飛散・流出がないよう必要な措置を講じること。また、定期的に点検し、良好な環境を維持すること。

9 書類の備付等

受注者は、次に掲げる帳簿書類を備え付け、発注者の求めに応じて閲覧又は報告できる措置を講じること。

- (1) 処理・処分にかかる施設整備の配置図、系統図の図面、構造物の安定計算書等
- (2) 搬入量、処理量、埋蔵量を記録した書類
- (3) 有価物量、有価物売却先等を記載した書類